



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

芝富士公民館地区は、住民の約30%が65歳以上の高齢者である。そのため、高齢者が公民館の主な利用層となっている。また、日々多忙な働き世代や若い世代は公民館に来館しにくい傾向がある。これらのことから、より幅広い世代へのアプローチが課題となっていた。

そこで、若い世代や働き世代にも公民館に来館し、利用してもらえるように、「わんぱく卓球」や「オンライン講座」を実施するとともに、地域や公民館の様子、事業風景等を公民館だよりに分かりやすく掲載し、来館せずとも地域や公民館の様子が伝わるようにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【わんぱく卓球】

公民館の利用団体がボランティアで講師をしており、卓球を通じて友達・親子・地域の人達の交流を深めることを目的としている。

また、隣接している川口市立芝富士小学校では放課後子供教室が未設置であるが、子ども達の健全で安全な「放課後の居場所」としての機能も担っている。

【健康体操教室】

65歳以上の高齢者が対象で、参加者の筋力アップと健康を目的とした事業。

芝富士公民館地区は高齢者の割合が大きいので、高齢者対象の事業も充実させている。毎年実施している事業だが、人気も高く、多くの高齢者が参加している事業。

【オンライン講座の導入】

コロナ禍の影響から対面講座が困難であるため、来館せずとも学習の機会を提供しようということから、4つのオンライン講座（動画視聴型）を実施した。

オンライン講座は、視聴される方の生活スタイルにあわせ時間を選ばず受講できるメリットがあるので、働き世代や子育て世代等の普段公民館に来館することが難しい方にも学びを提供することができた。

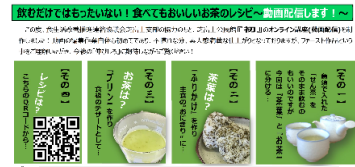
【芝富士公民館だよりのリニューアル】

「芝富士公民館だより」は毎月発行し、全戸配布している。少しでも多くの地域の方々に来館していただくため、コロナで来館できないのであれば、公民館だよりを使って「こちらから勝手に皆さんのところに行こうではないか！」の精神でリニューアル発行した。

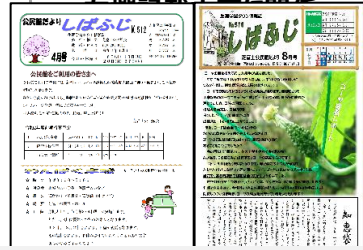
□リニューアル内容…見せ方の工夫（写真や表を多用）、公民館独自の情報発信（ゴーヤ成長レポート等を毎月継続的に掲載し、次号のご愛読に繋げる）、地域住民の方々にアンケート実施（当該公民館の認知度等を把握するため）、二次元コードの導入（色彩豊かな公民館だよりをカラーで見てもらうため。また、紙ベースからの脱却を模索し環境に配慮）etc.



健康体操教室



初めてのオンライン講座



芝富士公民館だよりBefore→After

3. 取組による成果や効果

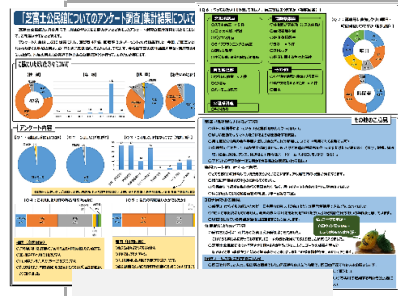
わんぱく卓球やオンライン講座により、今まで公民館に来館したことのない若い世代の層にアプローチすることができた。

わんぱく卓球では、子どもの送迎で公民館に立ち寄るだけでなく保護者も一緒に卓球をすることで、幅広い地域住民ともつながることができた。子どもにとっても、友達との交流や多世代交流を経験することができ、学びや成長を支える良い機会を提供できた。

また、講座の講師を利用団体に担っていただくことで、地域住民の交流が深まり、より一層地域づくりが活発になっていくきっかけになった。

公民館だよりのリニューアルに対する地域の皆さまからの評価には、定期利用団体のクラブ員からの「見やすくなった。」や「ゴーヤの成長を楽しみにしています。」などのリアクションがあった。地域住民同士がつながるだけでなく、職員も地域住民とつながりを深められたことで、今後の公民館活動や地域づくりの更なる充実に向けた期待が高まっている。

また、公民館だよりにて、「公民館についてのアンケート」を実施し、公民館の講座や、取り組み等地域住民のニーズを知ることができた。今後に活かしていきたい。



アンケート結果

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 参加者にアンケートを実施し、講座自体の評価、多様な意見を踏まえながら、検証・改善を行っている。
- オンライン講座についても、オンラインにてアンケートを実施し、検証・改善を行っている。
- 公民館運営審議会にて、事業の効果や成果の検証や、地域課題、住民のニーズを踏まえながら事業計画をしている。
- ブロック会議や主事会等を通じて他の公民館と情報交換などを実施し、事業計画や運営に役立てている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「You can't inspire people if you are going to be uninspiring」＝「自分が感動せずして人を感動させることは出来ない。」とアメリカの経済学者：ロバート・B・ライシュの名言があり、当該公民館も事業等を企画する際は、自身も楽しみ、地域の方に胸張ってお勧めできる内容の事業を企画することが大事であると考えます。

生涯学習の拠点としての事業展開はもちろん、人と人との繋がりを大切にしたい「コミュニティの拠点」としても、地域の皆さまに愛される公民館及び職員でありたいと願い、来館された方が気持ちよく利用し笑顔で帰っていただけるよう、日々の窓口・電話対応などの接遇に力を入れている。

また、右記の写真のように、狭かった窓口を拡張したことで、利用者の方と職員が窓口カウンター越しにコミュニケーションをとる機会がふえた。



公民館施設の改善

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍だけの苦肉の策ではなく、今後も、芝富士公民館は地域の皆さまだけにとどまらず、多くの方々に芝富士公民館を知っていただくための情報発信のツールとして、「電子版の公民館だより」や「オンライン講座」を継続していきたい。

また、コロナ終息後は、定期利用団体などの限られた利用者だけではなく、「ふらっと立ち寄れる、アットホームな公民館」を目指したいと考えている。きっかけは様々であるが、立ち寄った際に公民館を思う存分PRできるような掲示物や参加しやすくなる様なクラブ紹介などの情報を紙ベース並びに二次元コード等を用いて情報発信できればと検討している。まずは、公民館だよりで公民館に対する「気づき」を与え、来館していただくという作戦は、今後も継続していこうと思う。



芝富士公民館